

旧門脇小学校及び旧大川小学校の震災遺構化に関する検討・調整結果 概要版（旧門脇小学校）

1. 旧門脇小学校における東日本大震災の伝承の意義

・旧門脇小学校は、地域のシンボルであることを基本に、東日本大震災による津波被害の痕跡に加え、東北地方の多くの被災地で発生した津波火災の痕跡を唯一残し、さらに迫りくる火災の中で校内の避難者が日和山へ避難することができた経験を有しており、それらを伝承することが重要です。

- ①内陸部における津波と火災の複合被災を経験して残る東北唯一の施設です。
- ②複合被災の中での避難を可能とした環境が残っています。
- ③地域の歴史を伝えるシンボルです。
- ④複数の主要な復興まちづくり事業の展開地域に立地しています。



■被災時の旧門脇小学校

2. 旧門脇小学校（建物）を震災遺構とする場合のパターン

・旧門脇小学校（建物）を震災遺構とする場合のパターンとしては、解体・一部保存・全部保存の3パターンが考えられます。

■対応パターンとそのイメージ

パターン	イメージ図
①解体パターン ・校舎を全て解体します。	
②一部保存パターン ・校舎の壁等のごく一部や部分を保存します。 ・校舎を部分的に保存する場合は、校舎を「公開して活用する」場合と「公開しない」場合があります。	
③全部保存パターン ・校舎を全て保存します。 ・校舎を「公開して活用する」場合と「公開しない」場合があります。	

■概算事業費

（単位：千円）

	解体		部分保存		全部保存	
	校舎全て	校舎のごく一部を保存	公開活用あり	公開活用なし	公開活用あり	公開活用なし
解体整備費	211,671	291,651	706,168	350,968	1,026,262	416,805
維持管理運営費	1,522	2,482	14,808	6,467	20,464	10,362

3. 震災遺構とする場合のパターン別課題

・各パターンには、伝承の考え方や建物の状況、立場などによって様々な課題があります。

■パターン別の課題

	解体パターン	部分保存パターン	全部保存パターン	
震災の記憶の伝承	①内陸部における津波と火災の複合被災を経験して残る東北唯一の施設	△建物による伝承が難しくなります。	○一部ではあるが、建物により伝承ができます。	◎建物により伝承ができます。
	②複合被災の中での避難を可能とした環境			
	③地域の歴史を伝えるシンボル			
	④復興まちづくり事業の展開地域に立地	○現地で展開することにより連携した伝承が可能です。		
建物現況と構造	◎耐震補強が必要ありません。	○保存部分の耐震補強が必要です。	△現建物全体の耐震補強が必要です。	
市民アンケートの概要	・40.1%が解体を希望しています。	・41.1%が部分保存を希望しています。	・17.7%が全部保存を希望しています。	
地区住民アンケートの概要	・48.1%が解体を希望しています。	・36.8%が部分保存を希望しています。	・15.0%全部保存を希望しています。	
意見交換会の概要	・気持ち悪い、怖い等のため、見世物に感じるためです。	・街づくりや地域活性化に活かすためです。	・特にありません。	
市民・住民の意向への配慮	・立場により評価が分かれます。			
地区の景観・まちづくり	・新しい景観形成やまちづくりが可能となります。	・新旧の景観やまちづくりの融合が基本となります。	・現建物による景観の継承が必要となります。	
事業費（パターン間での比較）	◎初期投資、維持管理・運営費とも小さいです。	○初期投資、維持管理・運営費は中間です。	△初期投資、維持管理・運営費とも大きいです。	

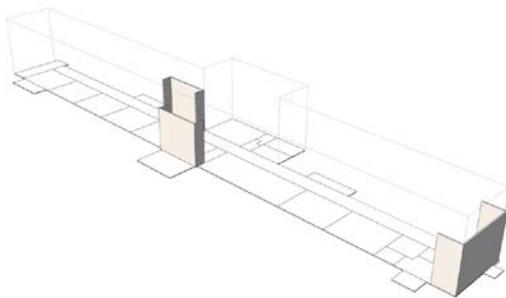
4. ケーススタディ

・各パターンが抱える様々な課題の解決のために3つのケースを検討しました。

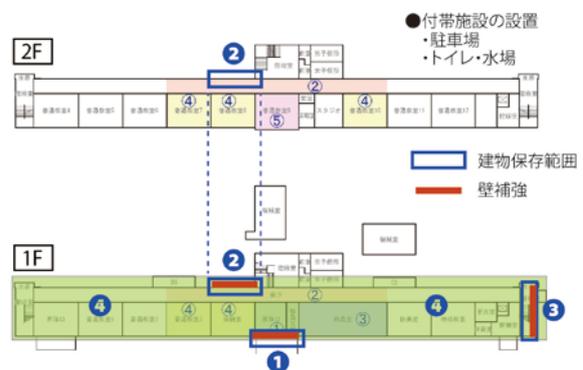
【ケースA】解体し、重要な壁等を残して、震災伝承を図る

1 震災伝承の基本的な考え方

- ・正面玄関の壁を残すことにより、「津波に依る被害」、「追悼・メモリアル」、「学校生活の記憶」を伝承します。
- ・北側の壁を残し、校舎から日和山へ避難し犠牲者が出なかったことを伝えます。
- ・出火元である東側の壁を残し、地震による津波と火災による複合災害を伝承します。



ボリュームイメージ



平面イメージ

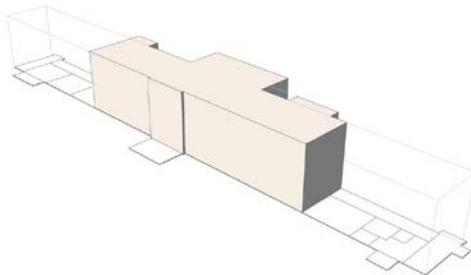
2 良い部分（メリット）と課題（デメリット）

<p>○良い部分（メリット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な壁を残すことにより、津波火災による複合的な被害や避難などについて伝承することができます。 ・ほぼ解体し、公園化することにより、「気持ち悪さ、怖さ」などの想いを和らげることができます。 	<p>●課題（デメリット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大部分を解体することにより、津波火災による複合的な被害や避難などの詳細について伝承することが限られます。 ・全てを解体する場合に比べ、解体工事費が高くなり、構造補強費も必要になります。
---	--

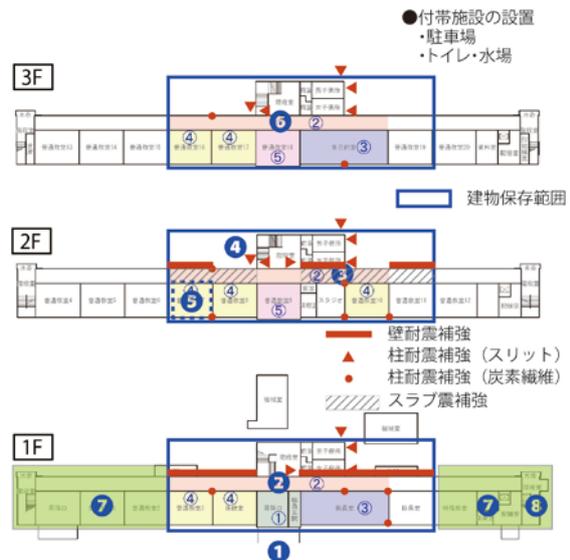
【ケースB】部分（3階まで）を保存し、重要な部屋等を公開して、震災伝承を図る

1 震災伝承の基本的な考え方

- ・正面玄関を残すことにより、「津波に依る被害」、「追悼・メモリアル」、「学校生活の記憶」を伝承します。
- ・校舎内部を公開活用することにより、津波や火災に依る被害を伝承します。
- ・避難路となった北側の窓周辺を保存することにより、校舎から日和山へ避難し犠牲者が出なかったことを伝えます。



ボリュームイメージ



平面イメージ

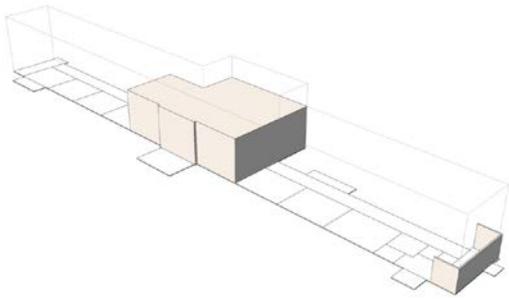
2 良い部分（メリット）と課題（デメリット）

<p>○良い部分（メリット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の象徴となる正面玄関を中心に部分保存し、津波被害や火災の痕跡がある校舎を公開活用することにより、津波火災による複合的な被害や避難などについて伝承することができます。 ・部分的な保存により、地区住民の「気持ち悪さ、怖さ」などの想いを和らげることができます。 	<p>●課題（デメリット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災の火元を残すことができないため、津波火災による複合的な被害の詳細について伝承することが限られます。 ・耐震補強が必要となり、それに伴う費用が発生します。
---	--

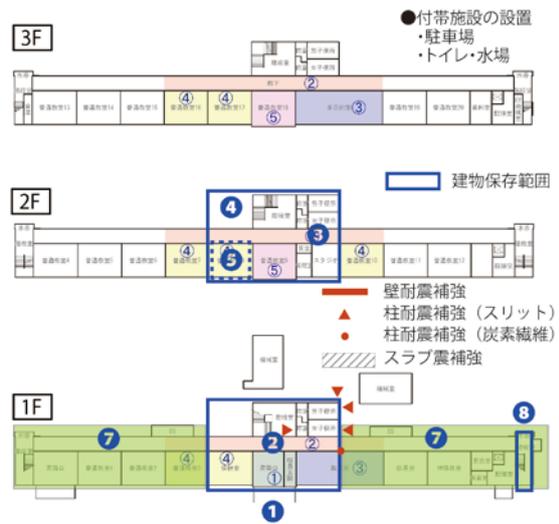
【ケースC】部分（2階まで）を保存し、重要な壁や部屋等を公開して、震災伝承を図る

1 震災伝承の基本的な考え方

- ・正面玄関を残すことにより、「津波に依る被害」、「追悼・メモリアル」、「学校生活の記憶」を伝承します。
- ・校舎内部を公開活用することにより、津波被害や火災の痕跡を伝えます。
- ・避難路となった北側の窓周辺を保存することにより、校舎から日和山へ避難し犠牲者が出なかったことを伝えます。
- ・出火元である東側の壁を残し、地震による津波と火災による複合災害を伝承します。



ボリュームイメージ



平面イメージ

2 良い部分（メリット）と課題（デメリット）

○良い部分（メリット）

- ・小学校の象徴となる正面玄関を中心に2階建てに減築保存した上で、津波被害や火災の痕跡がある校舎を公開活用し、さらに火災の火元となった東側の壁を残すことで津波火災による複合的な被害や避難などについて伝承することができます。
- ・面積、高さ共に減築することで、「気持ち悪さ、怖さ」などの想いを和らげることができます。

●課題（デメリット）

- ・耐震補強や壁を自立させるための構造補強が必要で、それに伴う費用が発生します。

【各ケース】 事業費

- ・3つのケースの事業費を検討しました。

■各ケースの事業費

(単位：千円)

	ケースA	ケースB	ケースC
解体整備費	291,651	706,168	468,213
維持管理 運営費	2,482	14,808	10,393

参考：旧門脇小学校の位置と周辺状況

